

Title	法学研究第三十八巻 (昭和四十年自一号至十二号) 総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1965
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.38, No.12 (1965. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	西本辰之助先生八十歳祝賀論文集
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19651215-0196">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19651215-0196</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 法学研究 第三十八卷(昭和四十年自一号至十二号) 総目次

## 論 説

	号数	頁	通頁	執筆 者
同時履行の抗弁権と履行遅滞との関係	一	一三	一三	小池隆一
——神戸先生の所説を中心として——				
神戸先生の「契約解除論」	一	五九	五九	今泉孝太郎
契約の成立時期について	一	七七	七七	田中実
——神戸先生の所説の再認識——				
民法制定より神戸先生に至る物権変動論	一	九九	九九	宮崎俊行
懸賞広告の法律的性質	一	一三三	一三三	人見康子
——神戸先生の所説とその後の展開を中心として——				
神戸先生の「白紙委任状論」	一	一五七	一五七	林脇トシ子
無意識的不合意と錯誤との関係について	一	一八七	一八七	内池慶四郎
——意思表示解釈の原理をめぐり——				
民法における権利拘束の原則	一	二二一	二二一	新田敏
——債権質及び土地賃借権設定の場合を中心として——				
英米法の歴史における既判力と判決による禁反言	二	一	二六九	平良
アバルトヘイトとアフリカーナ・ナシヨナリズム	二	二〇	二八八	小田英郎
新株の公募と株主保護	三	一	三七一	高鳥正夫
労働協約の法源性	三	三二	四〇二	川口実

シャリーアと若干の問題……………	三	六〇	四三〇	遠峰四郎
自由刑とわが国民性……………	四	一	四九三	青柳文雄
歴史的水域の制度の法典化について……………	四	三〇	五二二	中村洗
—— 歴史的湾を含む歴史的水域の法律制度・国際連合の事務局によつて準備された研究・記録に関連して——				
訴訟上の和解の法的性質……………	四	五三	五四五	石川明
—— Baumgarten の所説を中心にして——				
明治二十年・罪石事件の一考察……………	五	一	六一三	手塚豊
講の社会的性格に関する一考察……………	五	六〇	六七二	米地実
イギリス国会とアメリカ議会(一・二完)……………	七六	二〇	九〇一	藤原守胤
人格の自由な発展の基本権と他人の権利……………	六	七二	八〇二	田口精一
外務機関の機能と構成……………	七	一	八八一	内山正熊
—— 特に外務省と外務大臣について——				
航空機上の犯罪に関する諸問題……………	八	一	一〇〇一	宮崎澄夫
独立教唆罪について……………	八	二二	一〇二二	青柳文雄
被害者学の成立過程……………	八	三七	一〇三七	宮沢浩一
原爆と社会変動(一・二完)……………	九	三一	一一六三	米山桂三
—— 原爆被災者の社会人口誌学的考察と職業・職場集団の原爆体験——				
被保険利益の契約法的機能……………	九	三三	一一一五	川合隆男
—— 譲渡担保権設定者の被保険利益を契機として——				
子備罪に関する一考察……………	十	五四	一二一六	倉沢康一郎
中華人民共和国の外交政策決定に関する試論的考察……………	十一	一	一四一七	石川忠雄

保全手続における訴訟上の和解	十一	三二	一四四八	石川 明
発起人の法律上の地位	十二	九	一五四三	高鳥 正夫
株式の消却について	十二	四五	一五七九	米津 昭子
個人株主による議決権の不統一行使	十二	六五	一五九九	阪 埜 光 男
発起人の損害賠償責任について	十二	一〇九	一六四三	倉 沢 康 一 郎
発起人概念の把握の仕方について	十二	一三七	一六七一	清 水 新
株式会社における従業員組織の機関性	十二	一四七	一六八一	松 岡 和 生
——その前提的基本理論(主として社団法人理論との関連について)の検討——				
株主総会による取消しうべき決議の追認について	十二	一七五	一七〇九	大 野 直 治

資料

律・倉庫令並びに律集解逸文について	二	五一	三一九	利 光 三 津 夫
新律綱領、改定律例註釈書	四	七一	五六三	手 塚 豊
統・明治法制史料雑纂(一)				
自由党名古屋事件判決書	五	八七	六九九	手 塚 豊
統・明治法制史料雑纂(二)				
警視庁御雇外人ガンベ・グロース	六	一〇八	八三八	手 塚 豊
統・明治法制史料雑纂(三)				
御国民法——城井国綱本——	七	七五	九五五	手 塚 豊
統・明治法制史料雑纂(四)				
西ドイツ刑法学の現状	八	六四	一〇六四	宮 沢 浩 一

——刑法学者の業績を系譜学的にみて——

鶴田皓の「妾」論……………	九	九〇	一二五二	手塚 豊
続・明治法制史料雑纂(五)				
アメリカにおける日本政治・外交史研究の現状……………	十	七七	一三五九	池井 優
大分県監獄事件取調書(明治十六年)……………	十	九七	一三七九	手塚 豊
続・明治法制史料雑纂(六)				
スウェーデンにおける新兒童福祉法……………	十一	五一	一四六七	坂宮 沢 浩 仁
一九六〇年法律第九七号「児童及び少年の公的保護に関する法律」の翻訳				
今泉秀太郎(ボンチ絵画家)の死刑方法改正論……………	十一	八一	一四九七	手塚 豊
続・明治法制史料雑纂(七)				

判例研究

【民法】 三六 死者の代理人としてなした法律行為の効力……………	二	五八	三二六	林脇トシ子
【商法】 四一 営業財産の譲渡担保と株主総会の特別決議……………	二	六四	三三二	大賀 祥 充
【労働法】 一一 日本食塩事件……………	二	七三	三四一	社会法研究会
【最高裁判事例研究】 一九……………	二	七七	三四五	民事訴訟研究会
【行政法】 二五 選挙区における議員定数の是正を求める訴……………	三	七九	四四九	田口 精 一
【商法】 四二 重要財産の譲渡と株主総会における特別決議の要否……………	三	八四	四五四	大野 直 治
【労働法】 一二 新潟精神病院事件……………	三	八九	四五九	社会法研究会
【最高裁判事例研究】 二〇……………	三	九五	四六五	民事訴訟研究会
【商法】 四三 増資の際の「見せ金」による払込とそれに対応する払込金領収証の効力……………	四	八三	五七五	倉沢 康 一 郎
【労働法】 一三 コトヨ事件……………	四	八八	五八〇	社会法研究会

【最高裁判事例研究】	二一	四	九二	五八四	民事訴訟研究会
【労働法】	一四 第一工業製薬労組事件	五	九八	七一〇	社会法研究会
【最高裁判事例研究】	二二	五	一〇三	七一五	民事訴訟研究会
【労働法】	一五 全林野白石菅林署事件	六	一一七	八四七	社会法研究会
【最高裁判事例研究】	二三	六	一二二	八五二	民事訴訟研究会
【労働法】	一六 関西電力事件	七	一〇六	九八六	社会法研究会
【最高裁判事例研究】	二四	七	一一二	九九二	民事訴訟研究会
【商法】	四四 発起人が払込未済の場合と会社成立後における株主地位の取得	九	九四	一二五六	高鳥正夫
【労働法】	一七 東京都拜島自動車教習所事件	九	九六	一二五八	社会法研究会
【最高裁判事例研究】	二五	九	一〇二	一二六四	民事訴訟研究会
【商法】	四五 株式会社の登記か怠と代表取締役の処罰	十	一一〇	一三九二	米津昭子
【労働法】	一八 昭和産業相互銀行事件	十	一一五	一三九七	社会法研究会
【最高裁判事例研究】	二六	十	一二一	一四〇三	民事訴訟研究会
【商法】	四六 小切手の呈示期間後の取得者に対する支払の効力と利得償還請求権	十一	八六	一五〇二	近藤龍司
【労働法】	一九 山恵木材本訴事件	十一	九一	一五〇七	社会法研究会

紹介と批評

E・E・スミード著	「ラジオ・テレビジョンと言論の自由」	二	八四	三五二	生田正輝
崎山正毅訳	「ラジオ・テレビジョンと言論の自由」	二	八四	三五二	生田正輝
小橋一郎著	「手形行為論」	二	八六	三五四	倉沢康一郎
WK・J・W・ドイッチュ共編	「国家建設」	二	九五	三六三	内山秀夫

石川忠雄著『中華人民共和国』……………	三	一〇一	四七一	向山寛夫
——その実態と分析——				
「スイス刑法雑誌」七八卷（一九六二年）七九卷（一九六三年）……………	三	一〇四	四七四	宮沢浩一
M・オークション著『政治における合理主義その他論集』……………	三	一一八	四八八	奈良和重
H・S・カリエル著『権威を求めて』……………	四	九九	五九一	奈良和重
——二十世紀政治思想——				
J・キャデイ著『東南アジア史』……………	四	一〇三	五九五	松本三郎
CW・H・フリードランド C・G・ロスバーク二世 共編『アフリカ社会主義』……………	四	一〇八	六〇〇	小田英郎
C・フランケル著『デモクラシーの展望』……………	五	一〇八	七二〇	奈良和重
E・リード編『デモクラシーへの挑戦』……………				
——今後十年の課題——				
D・ボーク著『アメリカと一九三三年——一九三八年の極東の危機』……………	五	一一四	七二六	池井優
M・D・アイリッシュ編『アメリカ政治における継続的危機』……………	六	一三〇	八六〇	太田俊太郎
篠原一 永井陽之助編『現代政治学入門』……………	六	一三六	八六六	内山秀夫
P・W・クイック編『アフリカ——フォーリン・アフェアーズ読本』……………	六	一四四	八七四	小田英郎
ゴフ著『英国憲政史における基本法』……………	七	一一七	九九七	森岡敬一郎
M・K・ローゼンハイム編『少年のための司法』……………	八	一五三	一一五三	坂田仁
利光三津夫著『裁判の歴史——律令裁判を中心に——』……………	八	一五六	一一五六	小林宏
P・シュルタン著『労働権法』……………	九	一〇九	一二七一	阿久沢亀夫
CR・A・ダール著『現代政治分析』（現代政治学基礎シリーズ） CC・R・アドリアン 共著『アメリカの政治過程』……………	九	一一四	一二七六	堀江湛

藤原守胤著『アメリカ建国史論』	十	一二七	一四〇九	齋藤真
総同盟五十年史刊行委員会『総同盟五十年史第一巻』	十	一三〇	一四一二	中村勝範
J・R・ベノック編『近代化しつつある諸国における自治』	十一	九八	一五二四	内山秀夫
藤原守胤著『自由国家』	十一	一一〇	一五二六	檜山武夫

特別記事

神戸寅次郎先生略歴	一	二六一	二六一	
神戸寅次郎先生著作目録	一	二六三	二六三	
西本辰之助先生略歴	十二	一八七	一七二一	
西本辰之助先生主要著作目録	十二	一八九	一七二三	

原秀男氏提出学位請求論文審査要旨	四	一一四	六〇六	
------------------	---	-----	-----	--